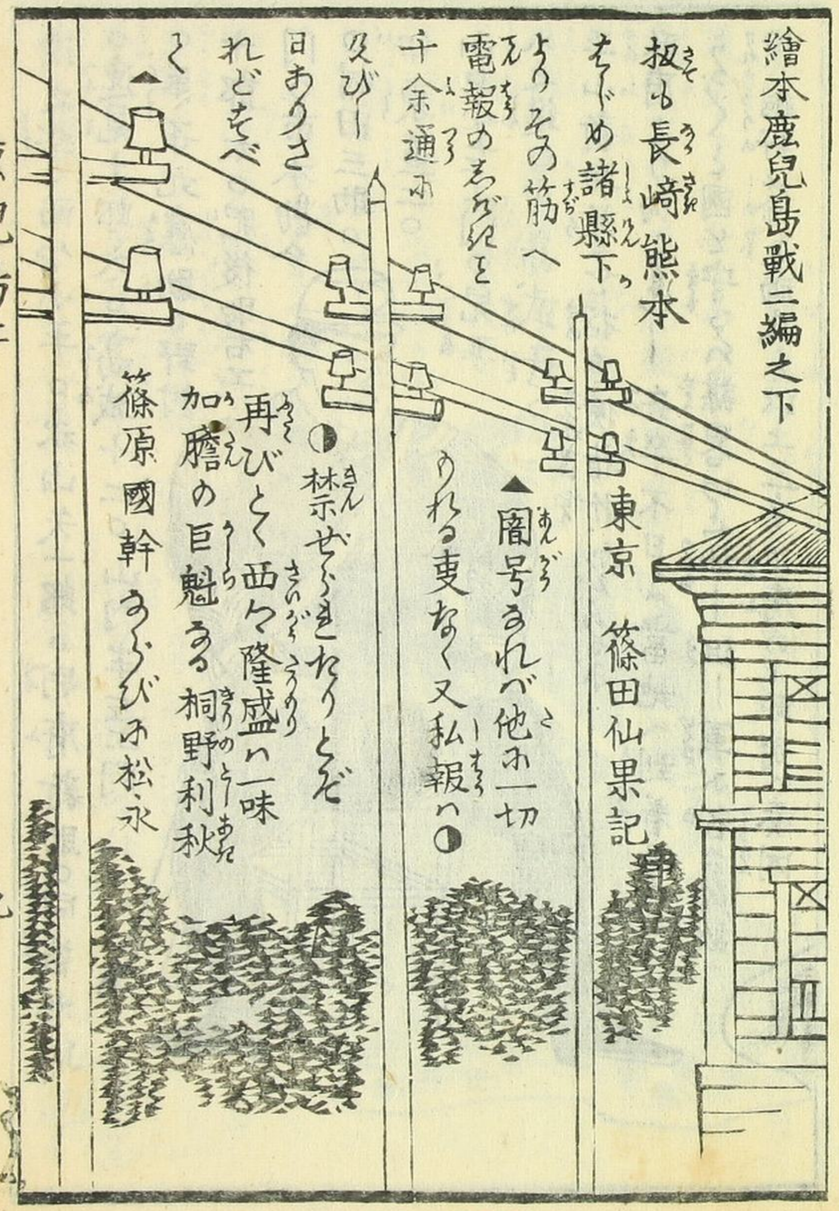
鹿兒島戰記
二編下

A421
46

篠田仙果
永島孟斎画

繪本 鹿児嶋戦記

東京 青盛堂板



UE-7864

清之丞○西々小平○永山矢一郎○別府新助○同苗九郎
○逸見十郎太○高城十二○山内半左エ門
○弟子丸應助○野村
十郎太○肥後助右エ
門○市木勘介
○村田三助○
伊東直二○
山口小左エ門○兒玉
八之進○中島武彦○
平山新助等を招き僕指折かぞるに
政府より向られし兵卒不日に當地へ到着せん
うつくと國を守るの謀畧いと拙し但し軍に名ある故
僕桐野篠原両氏と以上三名出府の上政府へ奏聞

せんるあり て鹿兒島を發足よつて我らと
護衛として兵士たちぐふ上旨を志ちめ
届文をさし出し肥後の國に乱
入し熊本城を奪とつく
彼城を根據とし
出張せし鎮臺兵を
一下討ふぐうぐふ招ふぐして
諸縣の士族ハ皆味方いたすべし
又我兵と挙ると同じ郷普の
物ハ應ずる如く遠近ともて
応援たぐし且攻来る鎮
臺兵いとる柔弱非力なる
農工商の者共まて我兵ハ

異なり数年
来勉強は業を
達せし精兵なれば只一戦に蹴散さん
且肥後ハよりを結び神風連も

残る居り又昨年の暴挙
ふつゝ當時懲役
中るところの神風
連の人々らも無論走参り
べられぬかさくりつて
手筈よ〜此義
如何と有れば一坐めの
雀踊り〜突ふ良討ふ
とせゝ立ち西々い日とりを操り寄ひ来る
十八日い進んで利をえる吉日あれが出陣
ふ及ぶべ〜とその日の服議い決〜る
さて十八日ふも成〜ゝ届け書一通縣廳へ
出〜第一陣い篠原國幹第二陣い

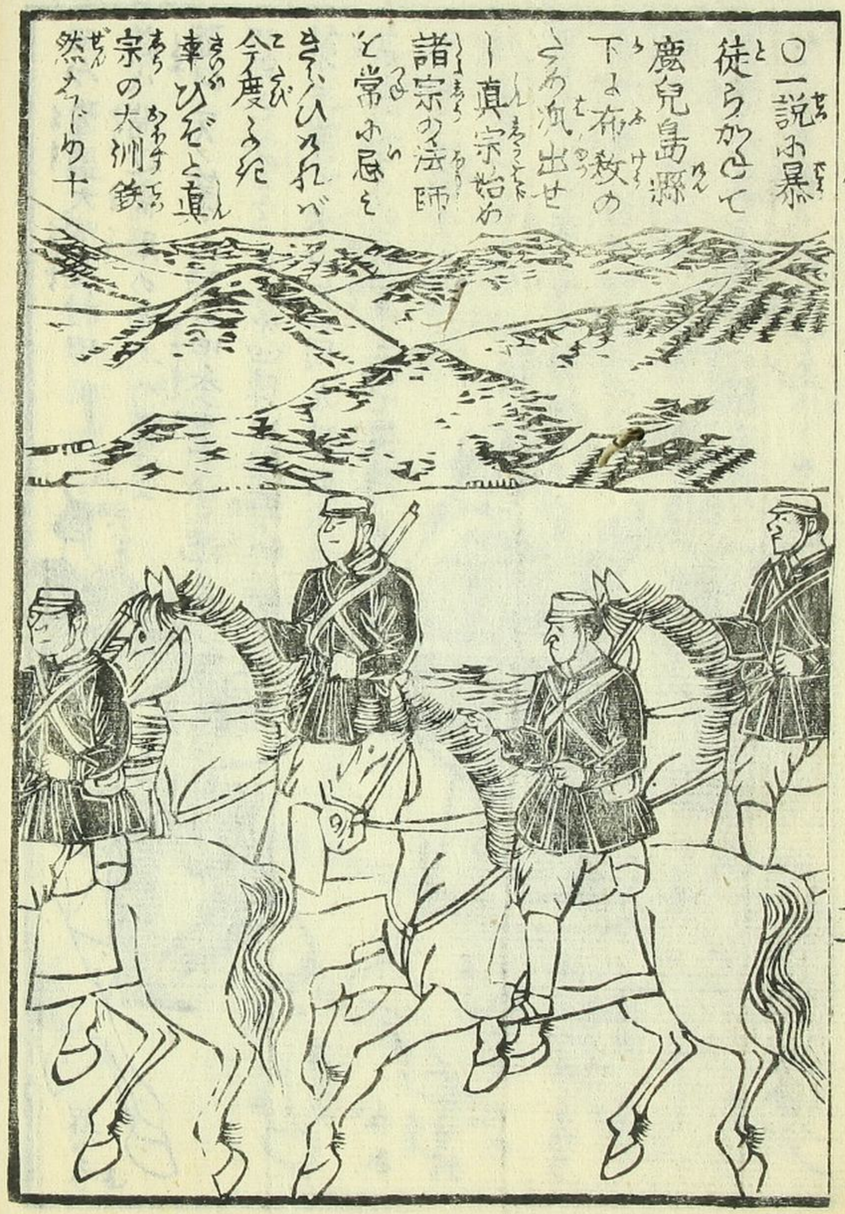
喇叭太鼓ふ足並揃へ一体ふ操中〜肥後國の

西々隆盛大隊長村田
新八淵辺高照の西人い此軍ニ
随ひ〜ゝ第三陣い旧参事ゝ他上
四郎とゝ〜ゝ第四陣い桐野利秋
第五陣い永山弥一同九成西人ゝて島津
其とゝ〜ゝの遊軍として後陣ゝ
惣勢二万四千人
外ふ九六百人程残〜て
國と守らゝ暴徒の総棟梁ゝ
前陸軍大將西々隆盛い
職の日ゝ官服と着〜桐野
篠原西名ゝ陸軍少將の服
とゝ〜ゝ惣人数列と正〜〜

八代ふて九の
如く一ゝと
熊本さ〜〜

二ゝ
ふふ
分れ

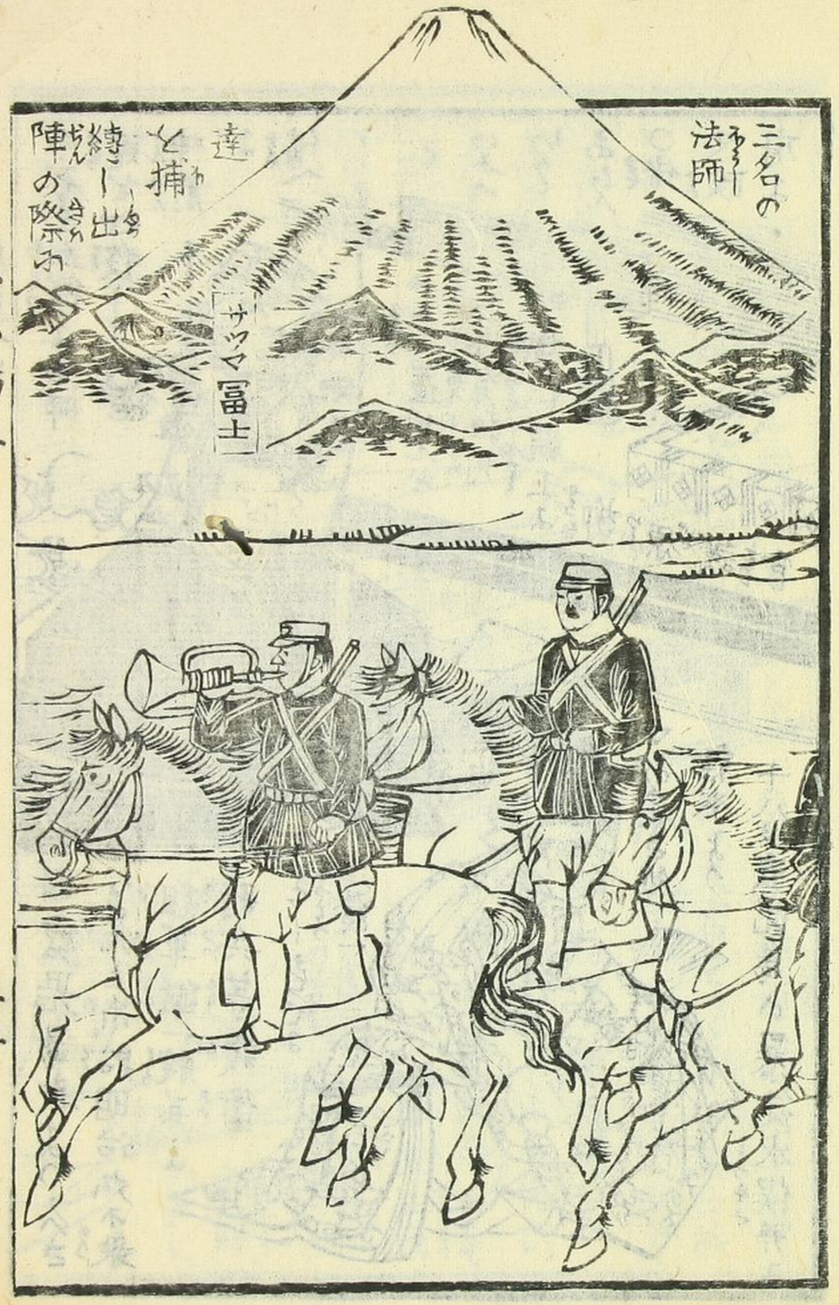
○一説に暴徒らかゝて鹿兒島縣下と布教のため出せし真宗始め諸宗の法師を常に忌きらひられば今度こそ死車ひぞと真宗の大洲鉄然たるもの十



三名の法師

「サツマ富士」

達を捕縛し出陣の際に



のぞむ血祭の法師達を切殺し神前

備へ

と

ふへ

いづ

あらん

○備

々政

府よ

▲處置せんと

二品有栖川

熾仁親王よ

柳原

議官

▲あゝ

熊本より

十八日鹿児島の暴徒水俣并ま

▲鹿児島表よりつゝき

まんと荒船明治丸の乘

組軍艦一艘并ま

騎兵等護衛

出發

度の

事件

若兵端

を開き

せば

生灵

滅ぼ

人民の難義

いかゝ

らん生徒ら

前非を悔

せば寛典よ▲

副ら

▲色説諭

▲ちの

人吉の両街道へ

あり又宿ろ

体の者十人

相越るこの電報着せ

ば此上い止ま

有栖川の宮へ勅命あ

暴徒征伐

総督ふ

任じ

参謀

野津陸軍少将三好陸軍少将と副られ
まゝ二月廿六日西京御注輦所
より陸軍大将正三位西々
隆盛陸軍少将正五位
桐野利秋陸軍少将正五位
篠原國幹の官位被仰せ
出されたるよりて有栖川の宮
ゆゝ二月廿四日御進発なる
同日午前十時行在所へ
参内あらせられより
小御所にて拝謁あり次に河村
海軍大輔にも拝謁仰付られ暇と
なり十二時十分に御料の馬車にて

河村君ともに日の御門を出て
堺町御門より三条通をうせ
られ司令官野津少将参謀長
岡本中佐に東京歩兵一大隊
大坂歩兵一大隊東京砲兵一小
隊工兵半隊騎兵輜重隊等を
率し第二の司令官三好少
将参謀野津大佐に近衛歩
兵一聯隊東京砲兵一小隊工
兵半隊騎兵輜重隊を率し
錦の御旗を比叡おろしにひるせ
威気やうゝと出発あり
○夫に備ある熊本縣下へ乱入せし

暴徒共ハ軍令三ケ条を定めその一
ハ官府の物ハ
ものを附ること
第二ハ官員を
殺すこと
第三ハ

欲ハ眼のくらを言愚民ども
ハ暴徒と勝
ハ人民ハ難
義をうけること
なれといと厳
しく申渡し
ハ農民ハ租
税をゆるめつかさんと
ハ思ひ申ハ

又
其の
神風連も
暴徒まで
する
くの
かり〳〵

さて
さて熊
本鎮ぶの兵

▲待うけさう
かゝる処へ
暴徒の
先隊
篠原
國幹一るの者共
神風連の士族共
を案内者として
兵をすゝめ
安政ぶ
とうち
わさう
千反畑を

暴徒ら寄せ
来る

よゝとさて
本営うる回
熊本の金城
鐵壁と以て
天下よろぶろきて
堅城ホとり大砲数門小銃数千挺
兵上都合八大隊五穀ハ
味噌塩まぐ十分ホとり入る泰然として
動うゞ其勢ひ猛虎の如く勇〳〵頗る
武威とあゝ〳〵今や賊きてふぐ應せんと

よゝとさて
坪井
町へと
おゝ
よせる

話二ツに分る茲に植木宿といふは
熊本より二里余あり
人家四百有余
軒あり此処へ
諸方より攻来る
歌とあせぐ
要害の地なる
往古加藤
清正も▲

◑桐野利秋
一手の組い植木宿へくりこめべ池上四郎永山矢一
い熊本の西南本々口へとくりこんぐり又遊軍島津
某へ千反畑京町より吶とぢりに操こんぐり

▲陣山とよび樹木
あらくくこしらえ
植木宿と後世とぐり
閑話へさてあらつ

繪本鹿兒島戦記二編下終

繪本太豐記　永島孟斎画
三編迄出版

繪本太閤記　切附本
同　画

新増本　西國奇談　為永春永作
同　画
廿編マテ出板

東京地本問屋　西國米沢町一丁目
加賀屋吉兵衛

010190509830

篠田仙果録

繪本

鹿兒島戦記

貳號

青盛堂寿梓